

ぶんきんニュース

日本分析化学会近畿支部ニュース 第1号

2005年8月30日

ぶんきんニュース 発行!

日本分析化学会近畿支部会員の皆様へ

これまで日本分析化学会近畿支部では、支部会員の皆様へのお知らせは、幹事などを通じた人づてによるものか、ホームページでのお知らせに限られていました。前者のコミュニケーション方法は支部会員をあまりカバーしているとは限らず、後者はホームページを見るというアクションを起こしていただかない限り情報を共有していただくことができないという問題があります。会員誌「ぶんせき」もコミュニケーションの手段ではありますが、支部にかかわるきめ細かな、またきびきびした情報伝達に向いてはいません。他支部では、支部ニュースを発行して支部会員の円滑な情報伝達と、より積極的な分析化学会の活動のよりどころとしているようです。これに習い、さる7月の日本分析化学会近畿支部第2回幹事会で、近畿支部でも支部ニュースを発行することにしました。

とくに今年度は、支部の新しい制度として、年度の途中からではありますが、以下の記事にありますように、国際交流助成制度と奨励賞を発足させましたので、これらを会員の皆様にお知りいただくべきという事情もあり、急ごしらえではありますが第1号をお届けします。このニュースは今のところ不定期発行です。郵送はせず、e-mail アドレスをお知らせいただいている会員の皆様には e-mail でお届けし、同時にホームページに掲載します。

2005年8月29日

日本分析化学会近畿支部

支部長 垣内 隆

目次

- ・ 近畿支部の奨励賞と助成制度創設! ----- p.2
- ・ 近畿分析技術研究奨励賞のお知らせ ----- p.2
- ・ 近畿分析技術研究国際交流助成のお知らせ ----- p.3
- ・ 東京コンファレンス 案内パンフレット ----- p.4

近畿支部の奨励賞と助成制度創設！

近畿支部では、「近畿分析技術研究奨励賞」と「近畿分析技術研究国際交流助成」の2つの新しい支部独自の制度を設けました。これらはいずれも近畿分析技術研究懇話会の財政的な援助をもとに行われるもので、今年度からスタートし、5年間継続します。

下記に募集要項を示します。積極的にご応募くださいますようお願いいたします。

近畿分析技術研究奨励賞募集のお知らせ

募集要項

1. 表彰の目的

分析化学にかかわる技術開発と研究に携わる近畿地区の優秀な若手技術者・研究者を奨励する。

2. 表彰の対象

募集年の4月1日時点で35歳以下であり、(1) 日本分析化学会近畿支部に所属する会員、(2) 日本分析化学会の維持会員もしくは特別会員である近畿地区の企業に所属する者、(3) 近畿分析技術研究懇話会の会員である企業に所属する者のいずれかであること。

2) 日本分析化学会奨励賞受賞者は、本賞の対象としない。

3. 表彰人数

表彰する者の数は各実施年度につき2名以内。

4. 表彰方法

賞状と記念品を授与する。

5. 応募方法

会員の推薦（自薦も含む）による。推薦者は、推薦状（様式1）、候補者本人作成の業績説明書（様式2）および業績リスト（様式3）、業績を示す資料（特許、技術説明書、論文別刷りなど）をまとめた正本1部、コピー7部を日本分析化学会近畿支部事務局へ提出する。申請書の様式は分析化学会近畿支部ホームページ<http://www.bunkin.org/> からダウンロードすることができる。

6. 募集期間

受賞年の9月1日から9月30日。

7. 提出先

社団法人 日本分析化学会近畿支部
〒550-0004 大阪市西区靱本町 1-8-4

近畿分析技術研究国際交流助成募集のお知らせ

募集要項

1. 助成対象

外国で開催される分析化学関連の国際会議、シンポジウム、ワークショップ等に出席して、とくに優秀な成果を発表する者に対して助成する。

2. 助成金額・件数

海外渡航にたいして1件あたり15万円を限度とする。

1年間の助成総額は40万円（税込み）であり、採択件数は応募状況によって変動する。

3. 応募資格

会議開催時点で35歳以下であり、(1) 日本分析化学会近畿支部に所属する会員、(2) 日本分析化学会の維持会員もしくは特別会員である近畿地区の企業に所属する者、(3) 近畿分析技術研究懇話会の会員である企業に所属する者のいずれかであること。

4. 助成の報告義務

渡航助成を受けた者は、帰国後1ヶ月以内に日本分析化学会近畿支部へ報告書を提出するとともに、6ヶ月以内に日本分析化学会近畿支部ニュースに報告記事を投稿しなければならない。

5. 応募手続き

所定の申請書に記入し、正本1部、写し7部を募集期間内に提出する（必着）。申請書には、会議概要（様式1-1）、参加目的（様式1-2）、発表の形式と内容（様式2）を記し、発表要旨、会議の回状（circular）やプログラムなど会議の内容がわかる資料を添付すること。申請書の様式は分析化学会近畿支部ホームページ<http://www.bunkin.org/> からダウンロードすることができる。

6. 募集期間

第1期 9月1日～9月30日（当該年12月～翌年5月開催分）

第2期 2月1日～2月末日（当該年の6～11月開催分）

開催のごあいさつ

東京コンファレンス2005は、「分析計測化学の進歩と展開」をメインテーマとして、3日間にわたりシンポジウムを開催し、機器分析化学が社会に対してどのように貢献しているのか、その現状を明らかにし今後の展望を探ります。初日8月31日には日本分析機器工業会のスポンサーシップに基づき昨年度から設けられました「先端分析技術・機器開発賞」の授賞式・受賞講演が行われます。

実行委員長 東京大学大学院工学系研究科
教授 北森 武彦

開催概要

第1日
「機器分析のcutting-edge」

第2日
「ここまでみえるイメージングの世界
-cmからnmまで-」

第3日
「食品と環境の安全・安心を
検証する分析化学」

「2005分析展」及び
JAIMAコンファレンス同時開催

会場

幕張メッセ国際会議場コンベンションホールA



登録

【予約登録】8月19日(金)まで
e-mail(tokyoconf@icl.t.u-tokyo.ac.jp)
またはFAX(03-5841-7728)にて所属・住所
氏名・電話番号・e-mailアドレスを連絡後、
郵便振替にて予約登録料をお支払い下さい。
(日本分析化学会員6000円、会員外8000円)
加入者名：東京コンファレンス
口座番号：00150-8-315357
(手数料70円が必要となります)

【当日登録】
日本分析化学会員8000円、会員外10000円

お問い合わせ

東京コンファレンス2005実行委員会事務局
〒113-8656
東京都文京区本郷7-3-1
東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻
北森研究室気付 担当・小川
Tel:03-5841-7760 Fax:03-5841-7728

e-mail:tokyoconf@icl.t.u-tokyo.ac.jp
<http://anchem.mc.kyoto-u.ac.jp/tokyoconf2005>

東京コンファレンス2005 -分析計測化学の進歩と展開-

平成17年8月31日(水)～9月2日(金)
幕張メッセ国際会議場
コンベンションホールA

主催
(社)日本分析化学会 (社)日本分析機器工業会
協賛
(社)日本化学会 日本質量分析学会
(社)電気化学会
化学とマイクロ・ナノシステム研究会 他



8月31日(水)

機器分析のcutting-edge

[午前] 感度でみなおす先端機器

- 9:35 NMRによる超高感度分析
～超偏極&超高磁場NMRの現状と展望～
(新日本製鐵) 齋藤 公児
- 10:15 XAFSの最先端
～構造から機能の起源に迫る～
(産総研) 大柳 宏之
- 10:55 溶液内でのin-situ少数分子振動分光
～表面増強ラマンによる単分子計測～
(北大院理) 村越 敬
- 11:35 質量分析による高感度・大規模
プロテオミクスは本当に可能なのか?
(産総研) 夏目 徹

[午後] ハイフネーションクロマトグラフィー

- 14:00 LC-MSで何が見える? ～LC-MSの基礎～
(MCPT) 高橋 豊
- 14:30 CE-MSによるメタボローム解析
～ここまでできるCE-MSの威力～
(慶大先端生命研) 曾我 朋義
- 15:00 LC-MSによるメタボローム解析
～脂質メタボロミクスを中心に～
(東大院医) 田口 良
- 15:45 LC-NMRでどこまで分かる? ～基礎と実際～
(パリアン・テック・システムズ・ジャパン) 串田 克彦
- 16:15 LC-NMRによる医薬品不純物・代謝物の構造解析
(東レリサーチセンター) 川口 謙

8月31日(水) 先端分析技術・機器開発賞 授賞式および受賞講演

- 12:40 授賞式
- 13:00 受賞講演「高速液体クロマトグラフIT-TOF質量分析計の開発」
(島津製作所) 谷口 純一
- 13:20 受賞講演「精密傾斜切削による薄膜の化学構造深さ方向分析法の開発」
(東レリサーチセンター, 現新潟県工業技術総合研究所) 永井 直人

プログラム

9月1日(木)

ここまでみえるイメージングの世界 -cmからnmまで-

[午前] 材料科学におけるイメージング

- 9:35 光電子立体写真法による
3D原子配列イメージング
(奈良先端科学技術大学院大) 大門 寛
- 10:20 テラヘルツイメージングの応用可能性
(理研) 山下 将嗣
- 11:05 MRIを用いた燃料電池内水分の
ミクロ・マクロイメージング
(東工大) 津島 将司
- 11:50 究極の光学顕微鏡をめざすX線顕微鏡
(広大院工) 早川 慎二郎

[午後] 生命科学におけるイメージング

- 13:30 バイオイメージング
(理研) 宮脇 敦史
- 14:15 PET SPECT核医学から分子イメージングへ
(福井大医) 藤林 靖久
- 15:00 TEMトモグラフィーのバイオ応用
(日立ハイテク) 中澤 英子
- 15:45 脳機能イメージング
(日立基礎研) 小泉 英明

9月2日(金)

食品と環境の安全・安心を検証する分析化学

[午前] 食品

- 9:35 GM (遺伝子組換え) 農産物の検出法
(食品総合研究所) 日野 明寛
- 10:15 食品の由来を確かめる
(食品総合研究所) 永田 忠博
- 11:05 マイクロ化学チップを用いた
異常プリオンの迅速分析
(マイクロ化学技研) 角田 正也
- 11:45 食品の安全性・機能性を
遺伝子発現によって検証する
(徳島大院) 中屋 豊

[午後] 環境

- 13:30 化学物質管理政策の世界的潮流と
わが国の対応
(経済産業省製造産業局
化学物質安全室) 辻 信一
- 14:15 RoHS対応の分析技術と標準物質の開発
(産総研計測標準部門) 千葉 光一
- 15:00 エコトキシコゲノミクス:
野生生物を対象とした有害化学物質の
リスク評価をめざして
(愛媛大) 岩田 久人
- 15:45 ナノ粒子(ディーゼル, チタニア,
フラーレン等)のリスク評価
(環境研環境健康研究領域) 小林 隆弘